

青年の高揚した気持を考えると無理もあるまい。とにかく独歩が本当に登って食べたか、それとも兄の作り話か、サイパン島で戦死した兄にはもうたしかめようがない。

大層優しかった兄「ウソなど云わなかったなあ」とあらためて想うと、兄は私に「独歩はここを通ったんだ」と遺言してくれた様な気がする。

しかし、この様な一文では独歩の帰路特定は無理な様だし、几帳面な林さんが納得してくれるか甚だ心もとない。せめて今生きている柿の木が何か云ってくれないのだが。まあ何にしても林さんのお陰で文豪の作品に木立の元越山がこの様に素晴らしく書かれているのを知って泌々独歩を有難く思った次第である。



表紙解説

写真は昨年十二月公開された佐伯藩十一代高泰公の別邸として、文久三年（一八六三）に建築したという天祐館跡地の発掘調査により、出土した基礎群のうちから独立基礎と思われるもの、一つを掲載しましたが佐伯市の市街地は全域が軟弱で地下水位が高いため、基礎強化に力を注いでいたことは今も昔も変わらなかったようです。

解説 林 寅喜

